

招請報告書

明治大学文学部専任教授、合田正人

2017年5月22日から30日にかけて、ニューヨーク州立大学バッファロー校の教授でユダヤ思想研究の世界的権威でもあるリチャード・コーエン氏を、明治大学国際連携事務室、国際交流基金事業の一環として招聘することができた。まず招聘を実現するためにご尽力いただいた国際連携事務室の皆様にご心より感謝申し上げたい。また、和泉インターナショナルハウスでの宿泊をご許可いただいたことについてもお礼を申し上げなければならない。

明治大学にて、コーエン氏はまず、5月24日午後6時から8時半まで、明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント4031教室で、講演「スピノザとレヴィナス」(英文)を行なった。コーエン氏はフランスのユダヤ系哲学者エマニュエル・レヴィナスの専門家で、レヴィナスがみずからの哲学の対蹠点に位置付けたのがスピノザであった。その意味で、この講演はレヴィナスを学ぶ者にとってもスピノザを学ぶ者にとっても極めて本質的な意義を有するものであったと言ってよい。聴衆は約30名、学部生も参加していたのは大変嬉しい出来事であった。一橋大学言語社会研究科准教授の三原芳秋氏の見事な通訳によって、質疑応答も実に活発になされたことも付言しておきたい。

翌25日は、招聘責任者、合田正人が担当する「西洋思想史」の講義にゲストとしてコーエン氏にご登壇いただき、「ユダヤ教哲学とは何か？」(英文)という題で入門的講演をおこなっていただいた。会場は明治大学和泉キャンパス第二校舎第五教室で百名を超える聴衆が参加した。通訳は合田が担当した。

一体、「ユダヤ教」と「哲学」を「ユダヤ教哲学」という具合に接合することはできるのか否か。できると主張する者もいれば、できないと主張する者もいる。前者の代表者はマイモニデスやモーゼス・メンデルスゾーン、後者の代表はスピノザであるが、コーエン氏はユダヤ思想史からこれら二つの潮流を浮き彫りにし、その各々について大変興味深い時代区分を提示するとともに、様々な鍵概念について丁寧な説明を行ってくれた。「ユダヤ教」という日本の聴衆にはなじみの薄いテーマであるだけに、まさに蒙を啓かれた聴衆も決して少なくなかったはずである。

以上に加えて、明治大学人文科学研究所総合研究第二種「現象学の異境的展開」(研究者、合田正人)ならびに京都ユダヤ思想学会の依頼を受けて、コーエン氏は同志社大学今出川キャンパスにて5月28日に「フランツ・ローゼンツヴァイクをめぐって」という講演を行った。

コーエン氏の滞在はきわめて多くの「考えるべきこと」を私たち与えてくれるものだった。関係した教員のみならず、院生、学生、更には市井の方々とも熱心に、また、実に気さくにお付き合いいただき、様々な質問にも丁寧にお答えいただいた。30年ぶりの二度目の来日であったようだが、コーエン氏にとってもこの滞在が有意義で快適なものであっ

たことを祈念するとともに、改めて国際連携事務室のご協力に心から感謝申し上げたい。

2017年5月29日

合田正人